

# ともしえ

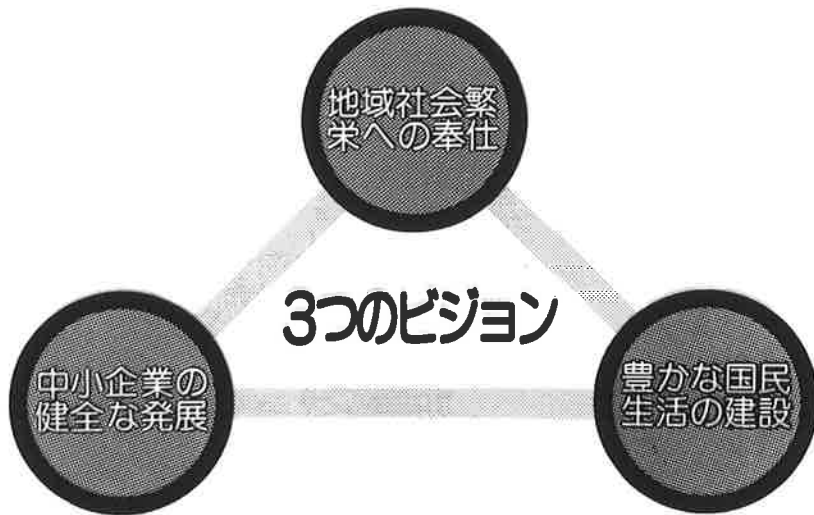
No. 61



■函館商工会議所報■

1986 2月号

企業を育て  
地域を伸ばす  
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと  
確かな未来の実現に  
お手伝いいたします。

 **はこしん**  
**函館信用金庫**

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241代

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247代	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820代
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221代	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711代
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236代	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151代
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511代	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111代
弁天町支店	函館市弁天町15番6号	TEL26-3646代	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501代
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238代	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121代
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492代	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611代
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521代			

●ともしえ・61号目次●

巻頭言	1
会議所だより	2
調査レポート	6
アドバイスコナー	12
寄稿文	14
ご存じですか	16
事務局日誌	19
ティータイム	20
告知板	22



●巻頭言●

「春近し」

一年で最も寒い時期もようやく終り、日差しも日一日と暖かみを増し、いわゆる三寒四温の季を迎えた。

六十一年度の経済成長の見通しは、二ないし三％程度というところで、政府見通しの四％は、円高などの状況から判断して目標値であるという声もある。しかし設備投資に対する根強い動きもあり、円高による成長率鈍化も逆にデフレ効果による内需拡大につながり、全体としては前に進むのではないかと予測もされている。

全体としては厳しい情勢であるが、それでも何かしら一条の光が差しこんでくる余地も可能性としてあるということであろう。当地域にとってこのことはよく考えてみる必要がある。

名経営者にとって必要欠くべからざるもの、それは事業に対する創造性ではなからうか。そして小さな努力を絶えず続けることも大切であり、また小さな出来事でも見逃さない不測の注意が大発見にもつながるのではないかと考える。

二年後の六十三年春には青函トンネルを通り本州との直通電車が函館に発着する。またとないチャンス到来である。あすの明るい函館を目指して、そして経済の活性化のためにも、またわれわれ自身のためにも、どうすればよいのか今一度考えてみようではないか。

種をまくべき春はもうすぐそこにきている。  
あとは実行あるのみである。

# 会議所 だより



地元経済の厳しい現況を説明する業界代表

## 公共工事増額など要望

### 経企庁地域景気懇談会

経済企画庁による地域景気懇談会が一月二十八日午後一時三十分から本所で開かれ、地元側から本所川田会頭ほか各業界代表が出席し、経済企画庁の幹部と懇談、それぞれ厳し

い経営環境を説明。公共事業の増加を図ってほしいなどの要望意見が出されました。

この懇談会は、経済企画庁が景気の現況と今後の見通しを中心に地域経済の実態を把握するため全国各地で開催、今回は全国九都市が対象となり、本道では三年振りに函館が対象となりました。

同庁から田中努経済研究所次長ら四人が来函、懇談会では、それぞれの業界が置かれている経営状況の説明と政策への要望などが行われました。その中で各業界とも円高等による業績不振を強調。「道南地域は社会資本の蓄積が少ないため、公共投資を増してほしい」「公共工事は地元企業に重点発注を望む」「円高の影響で輸出が苦境に立っている」「円高により輸入価格が低下し、外国製品と競合しはじめている」「円高により製品の原価に占める電力・ガス等の価格を下げるよう指導して

ほしい」「原材料である生イカの輸入枠を増してほしい」「大型間接税の導入は絶対反対である」「政府系金融機関は設備投資に対し長期・低利の資金を望む」「空港の各路線とも一路線に複数の航空会社を運航（ダブルトラックキング）すること」など政策への要望と業界の苦しい現状を訴えました。

#### 地域景気懇談会

##### 地元側出席者

函館商工会議所 会頭 川田 寛  
函館どつく(株)函館造船所

(株)豊山食品 所長 平林雅男  
社長 豊山秋央

日本セメント(株)上磯工場 工場長 飯塚洲一

(株)函館製網船具

専務取締役 猪口義雄

(株)工藤組 代表取締役 福西秀雄

(株)棒二森屋 社長 荻野 清

(株)カネマル 社長 下郡山信一

(株)湯の川プリンスホテル

社長 河内孝夫



青函博の同時開催を約束し握手する川田会頭ら

# 青函博同時開催決まる

## 北海道・青森県が合意

六十三年の青函トンネル完成を記念する青函博覧会開催について、北海道側と青森県側の代表が一月三十一日青森市内のホテルで会合し、北

海道側が同時開催を正式に申し入れたのに対し青森側が了承しました。会合には、北海道側から本所川田寛会頭、柴田彰市長、我孫子健一 道開発調整部長、青森県側から山内善郎副知事、工藤正青森市長らが出席、我孫子部長が「函館市は昨年か

ら青函博開催に熱心に取り組んでおり、道としても協力していく。同時開催については、すでに横路知事が北村知事に申し入れていたが、改めてお願いしたい」と要請しました。これに対し、山内副知事は「青森と函館は昔からつながりが深く、同時開催が望ましく、お互い是非成功させたい」と了承しました。今後、名称、会期、事業内容など具体的に調整を進めていくことを申し合いました。

# 地域社会とニューメディア

## 来る二月二十五日開催

講 習 会



一九八〇年代もはや半ばを過ぎましたが、来るべき二十一世紀へ向けての急速な科学技術の進展は、あらゆる分野に大きな変革をもたらしつつあります。

とりわけ通信技術の進歩は私どもの日常生活におけるコミュニケーションの手段を大きく変え、それによってもたらされる情報の量もまた、飛躍的に増大しています。いわゆるニューメディアが続々と誕生し、高度情報化時代とまで言われるようになりました。函館商工会議所においてもそのよ

うな時代背景のもとに、昨年末の議員改選を機会に高度情報化委員会を新たに設置し、情報化時代への対応について調査研究をすすめることになったことは、既にご承知の通りです。

全国の主要会議所においても、本所と同じ視点から情報化委員会を設置するところが増えつつあり、これら他会議所の動きも参考にしながら当委員会の活動方針として、ニューメディアがこれからの地域社会にどのような変化をもたらすのか、またそのこととどう対処してゆくべきなのか、について委員会内の調査研究にとどめず、会員企業を中心に広くニューメディアに対する理解を求めることとしました。

そのような趣旨から、先ず手始めとして、来る二月二十五日にニューメディアの解説と、実際に機械器具にふれてもらう場を設けることを企画しました。詳細は本紙二十二頁の告知板をご参照下さい。新しいコミュニケーションの手段を日常生活に、企業経営にどう活用してゆくかをこの機会に学んでほしいと思います。

# 北洋漁業の恒久的安定を

## 対ソ漁業交渉危機突破大会

一月四日以降中断しているソ連二百カイリ内での操業に係わる日ソ漁業交渉の再開を訴える「対ソ漁業交渉危機突破大会」は一月十六日、道内函館、稚内、釧路、小樽など主要水産都市で同時に行われました。

函館大会は、同日午後四時から函館市水産物地方卸売市場に北修二参議院議員、函館市長、本商工会議所高野副会頭、北海道遠洋漁業協同組合竹林組合長、日米漁業交渉日本側代表顧問団委員・日本鮭鱒漁業協同組合連合会藤谷組合長ほか漁船員、関連漁業者ら約二百人が参加し氣勢をあげました。

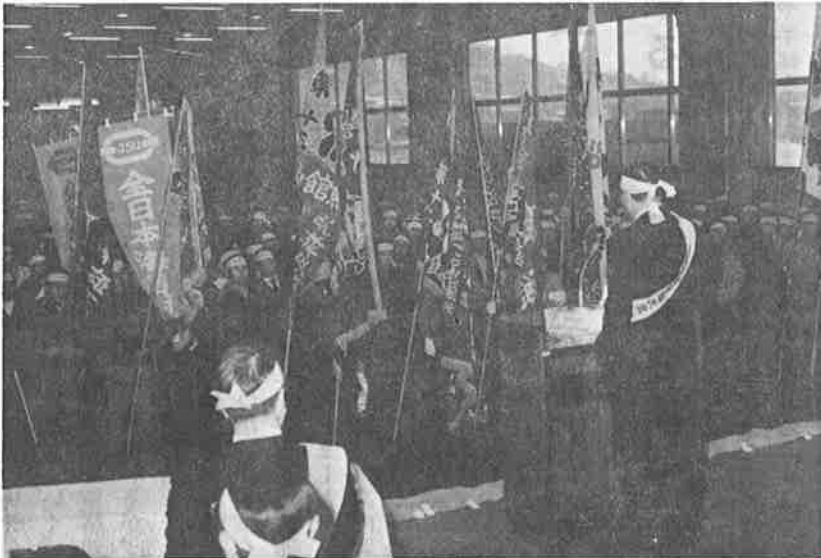
大会では本所高野副会頭が議長団代表としてあいさつを行ったあと次第に従って大会が進められ、一、ソ連の提案を断固撤回させ北洋における漁業の実績を確保すること。二、水産加工工業等関連企業ならびに乗組員の生活権を確保すること。三、政府は、強力な漁業外交をもって北洋

漁業危機を早期に打開すること。の三項目を決議し、

「北洋漁業を守るう」のシュプレヒコールを行い大会を終えました。なお決議事項は内閣総理大臣、農林水産大臣、外務大臣、水産庁長官など政府関係に強力に要請することになっています。

日ソ漁業交渉は、昨年日ソ間で新たな漁業協定が締結されたものの、一月四日以降ソ連二百カイリ内規制強化と日本沿岸での漁業規制緩和を求め交渉を中断、ソ連二百カイ

リ内での操業がストップしたまままで今後この状態が続いた場合、水揚げ、加工、漁網などの物資調達、造船など函館経済に及ぼす影響は極めて大きいものと予想され、日ソ漁業交渉の早期決着が待たれるところです。



北洋漁業を守れと訴える対ソ漁業交渉危機突破函館大会

**お客様の要望に100%お答えする家作り!!**

新築・増改築●見積り無料・各種ローン有

本格木造注文住宅

**工**カネ工 **佐藤建設**



松陰町5-3

(柏野小・グランド隣)

51-5988

# 函館中国経済促進協会

## 来月中旬に設立

### 民間レベルで交流事業

函館と中国の経済交流促進を話し合う「第四回中国との経済交流に関する懇談会」が二月四日、市役所で開催されました。

これまで、函館市、本所、業界有志が懇談会を開いて情報交換していましたが、これを発展的に解消して、本格的に商取引などの実現化に向け、地元企業を中心となった民間レベルの「函館中国経済促進協会」を三月中旬に設立することを決めました。

昨年三月、本所川田会頭が経済視察のため寧波市を訪れたとき、函館・寧波両市の間で、貿易促進や合併企業設立の話がもち上がり、これにより五月に、日中経済交流を地域経済振興に役立てようと、函館市と本所が主催し、一回目の「中国との経済交流に関する懇談会」が開かれ、

自由な意見を交し合いました。

九月には懇談会の参加者が中心となった函館経済訪中団が中国を訪れ、上海、大連などの都市を回り経済視察をしました。こうした動きの中で、中国各都市から「函館と積極的な経済交流をしたい」という申し入れがあり、このため、具体的な貿易取引や商談の話を実現しやすくしようと、民間レベルの協会設立の機運が盛り上がったためです。

懇談会には、約三十人が出席、「函館中国経済促進協会」を設立することが満場一致で決まりました。会員制で、三月中旬ごろ設立を予定、これに伴い懇談会は解散することになります。

#### 六十一年度各種検定期程決まる

日本商工会議所、函館商工会議所

種目	施行期日
珠算	第117回 61年6月22日(第4日曜)
	第118回 61年10月26日(第4日曜)
	第119回 62年2月8日(第2日曜)
簿記	第64回 61年6月8日(第2日曜)
	第65回 61年11月16日(第3日曜)
小売商(販売士)	第18回 3級 61年7月16日(第3水曜)
	第14回 2級 61年10月8日(第2水曜)
	第14回 1級 } 62年2月18日(第3水曜)
	第19回 3級 }

は、商工業に関する技術・技能の環境として、珠算、簿記、小売商(販売士)の三種類の技能検定期験を実施しています。

昭和六十一年度に行われる各種検定期験の日程が別表のとおり決まりました。

それによると、そろばんの祭典——第四十回国民珠算競技大会の地方予選は四月二十七日、全国大会は茨城県水戸市で五月二十五日に開催されます。

なお、本所では日本語ワープロ検定期験を実施することについては現在検討中です。

## お使いですか？テレホンカード!!

- 電話もキャッシュレス  
緑の公衆電話が増えています。
- 企業PR・広告宣伝・贈答用に  
あなたの会社のテレホンカードが作れます。



ご相談はお近くの電話局・美原サービスステーションへ



荷動きが鈍いうえ製品市況の軟化も著しいことから、操業日数の短縮等により減産を強化。セメントも、安価輸入玉との競合激化や公共工事の端境期入り等から荷動き低迷。

(漁業)

スケトウ漁が豊漁・魚価高を続けているほか、出荷解禁日が例年比1週間程度遅れた(昨年比2週間早目)噴火湾養殖ホタテ漁も、価格は昨年比小安いが順調な水揚げをみている模様。この間近海マイカ漁は、水揚げが低調な前年をさらに3割下方回る不漁のうちに終漁。

(小売商況)

12月中の市内大型小売店(10か店)の売り上げは、セーター、コート、防寒靴、暖房器具等の冬物商品や、食料品を中心とする歳暮贈答品などが堅調な売れ行きをみせたことから、月中では高伸した前年を小幅ながら上回った(前年比 $\oplus$ 1.7%)。1月入り後についても、寒波持続や積極的なバーゲンセール実施にも支えられ、冬物衣料品、身回り品、雑貨等を中心に順調に推移している模様。

一方、耐久消費財では、自動車販売(含む軽自動車)が、軽自動車の好売れ行き持続から前年を上回った(12月中管内自動車新車登録台数前年比 $\oplus$ 6.4%)ほか、家電販売も、VTR、電子レンジ、パソコン、CDプレーヤー等を中心に上向きつつある模様。

3. 金融事情(12月中および60年中)

○管内金融機関の実質預金は、法人筋の年末決済資金の一時的滞留増や個人ボーナス預金の流入伸長から、月中405億円増と前年(326億円増)を2割強上回る増加。60年中では、一般法人預金、公金預金の不振等から195億円増と(前年311億円増)比増加幅は大幅縮小。

一方、貸し出しは、企業の年末決算資金や地方公共団体向けのつなぎ資金等季節需資が嵩んだため、月中158億円の増加(前年129億円増)。60年中では、企業需資の落ち着きを映して219億円増と前年(303億円増)を3割弱下回る増加に止まった。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、月中 $\Delta$ 0.021%と引き続き低下(前月 $\Delta$ 0.023%、60年中 $\Delta$ 0.145%)。

○12月中の銀行券は、官民ボーナス、越年資金等現金需要が嵩んだため、182億円の発行超となったが、発行超幅は年末日の還流が比較的順調であったことから前年(発行超199億円)比1割方縮小。60年中の銀行券は、行楽資金の流入増等を映して、前年(還収率93億円)を上回る158億円の還収超。

○12月中の財政収支は、郵貯、保険等の受け入れが大きかったものの、公共事業関係費および期末勤勉手当の支払いが嵩んだため、月中67億円の払超(前年同72億円)。60年中では、公共事業関係費、国鉄、一般給与等の諸払増加から、292億円の払超(前年同227億円)。以上

統計資料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高(10店) 昭和60年12月

品目	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	4,335,691	139.4	101.7
身体用品	828,712	160.2	99.9
雑貨	1,198,946	204.3	99.5
家庭用品	1,159,040	162.5	100.6
食料品	3,307,755	221.0	98.5
食堂・喫茶	248,753	142.2	99.9
コンビニ	92,659	154.9	109.4
その他	574,613	194.2	127.1
総額	11,746,169	168.9	101.3

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショッピングセンター、ホリタショッピングセンター、ホリタショッピングセンターの各店をいう。



12月

昭和61年1月31日発表

## 金融経済概況

## 日本銀行函館支店

## 1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、生産活動面では、業種、企業間での明暗のばらつき度合いを増しつつ、全体として頭打ちの様相を示している。すなわち製缶機械、化学肥料が旺盛な需要を背景に増産体制を続行しているのをはじめ、造船、珍味加工等でも高操業を維持、また電子部品でも引き合い、市況が持ち直しつつあるため減産緩和に転じている。しかしながら、合板、合板機械、飼料・魚油、セメント等では、冬場不需要期入りといった季節的要因に加え、輸出成約難、安値輸入玉との競合激化等今次円高に伴うマイナス影響もあって、減産を継続ないし強化する動きがみられるほか、漁網等でも日米・日ソ漁業交渉難航等を背景とした先行きの需要減退を見込んで生産を抑制している。この間、個人消費面では、大型小売店や家電販売の年末・年始商戦が総じて堅調裡に推移、また漁業では、近海マイカ漁が不漁のうちに終漁したものの、スケトウおよびホタテ漁は好漁の様相。

金融面では、年末決済・賞与資金等季節需資が盛り上がりを見たが、金融機関の弾力的な融資姿勢もあり、年末金融は平穩裡に推移。管内銀行の貸出約定平均金利は引き続き低下。

## 2. 主要業種別動向

## (造船)

新造船部門では、親会社の優先的な受注繰り回し方針を映し秋口頃までの仕事量を確保しているほか、修繕船、陸上部門でも官庁船、橋梁等比較的順調な受注をみているため、時間外の削減を図りながらも、高操業を継続。

## (電子部品)

国内、米国市場での需給バランスの改善傾向を映じて、引き合い、市況とも持ち直しつつあるため、小幅ながら時間外操業を再開するなど減産を緩和。

## (珍味加工)

年末・年始需要が盛り上がったうえ、その後の消費地問屋筋の在庫補填買いが順調なことから、春の行楽需要にも期待し、高目の生産水準を維持。

## (化学)

飼料・魚油では、安値輸入飼料との競合激化を映じて製品価格が弱含んでいるほか、魚油輸出の落ち込みもあって、引き続き生産を抑制。化学肥料は、農家筋の引き合いが引き続き旺盛であり、在庫水準も依然低目なことから、時間外操業によりフル生産を続行。

## (機械)

製缶機械は、缶詰容器の多様化を映じて食料品メーカーからの引き合いが順調なうえ、医療機器メーカーによる新規の大口スポット受注も舞い込んでいるため、目一杯の時間外操業等によりフル操業体制を継続。合板機械では、汎用高級機種等に対する国内メーカーの更新需要は順調なものの、価格交渉難航等に伴う輸出の落ち込みから、操業度の一段低下を余儀なくされている。

## (段ボール)

加工食品向けの荷動きは引き続き順調なもの、主力青果・水産物向け出荷が季節的に一服することから、定時操業体制へ移行。

## (乳加工品)

業界の増産体制進展等に伴う主力粉乳の需給逼迫感後退、練乳の在庫積み上がり、アイスクリーム等季節製品の需要端境期などから、生産を抑制。

## (漁網)

日米・日ソ漁業交渉の難航等を映じて、サケ・マス流し網、スケトウ用底引網等に対する漁撈筋の発注姿勢が慎重なことから、小幅減産体制を継続。

## (その他の製造業)

合板は、住宅着工の伸び悩みや安値インドネシア産合板の流入増等を映じて、

比D I  $\Delta$  5.6といずれもD Iがマイナスを示している。細業種でみると、今期比はすべての業種でD Iがマイナスを示し、業績悪化を予想している。また、前年同期比では水産加工業と造船業でD Iが若干プラスしているが他はすべてマイナスを示している。

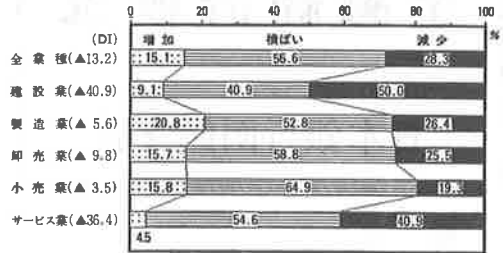
卸売業では、今期比D I  $\Delta$  32.0、前年同期比D I  $\Delta$  9.8といずれもD Iがマイナスを示し悪化基調を予想している。細業種でみると、食料品業と医薬品・化粧品業が前年同期比でD Iが若干プラスしている以外は、総じて悪化ぎみの予想をしており、特に燃料業、建築材料業は、今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示しており、業績悪化を予想している。

小売業では、今期比D I 0.0、前年同期比D I  $\Delta$  3.5と、ほぼ横ばい状態を予想している。細業種でみると、自動車販売業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し業績好転を見込んでおり、各種商品販売業はほぼ横ばい、また、衣服・身の回り品販売業、飲食料品業は悪化基調を予想している。

サービス業では、今期比D I  $\Delta$  27.3、前年同期比D I  $\Delta$  36.4といずれもD Iがマイナスを示し、業績悪化を予想している。細業種でみると、今期比、前年同期比ともにすべての

業種でD Iがマイナスを示しており、特にクリーニング・理美容業では業績好転を予想する企業はない。

図-6 来期の売り上げ見通し(対前年同期比)



### 3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業7.2%に対し、「悪化」とする企業18.8%でD I  $\Delta$  11.6となっているが、「変わらない」とする企業が74.0%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると、建設業D I  $\Delta$  29.2 製造業D I  $\Delta$  5.6、卸売業D I  $\Delta$  18.0、小売業D I 1.7、サービス業D I  $\Delta$  27.3と、小売業以外はすべてのD Iがマイナスを示しているが、各業種とも大半の企業が「変わらない」としている。

新しい感覚・卓越した先進のシステムを通して  
美しい印刷物をお届けしています

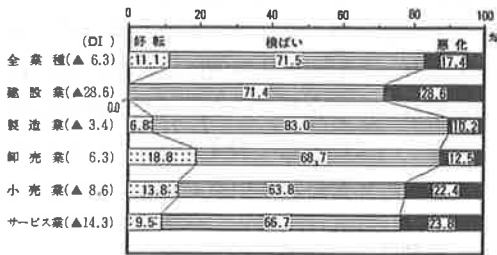
 株式会社 **第一印刷**

TEL (0138) 23-0101・(040) 函館市末広町1番8号

化」した企業17.4%でD Iが△6.3を示しており、悪化基調に変わらないが、「変わらない」とする企業が71.5%もあり、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にみると、卸売業以外はすべての業種でD Iがマイナスを示しているが、やはり各業種とも「変わらない」とする企業が大半を占めており、前期並みに推移した。

図-4 今期の資金繰り(対前期比)



## 5. 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげている企業が多く、全業種で50.7%と過半数を占めている。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業72.0%、製造業50.0%、卸売業50.0%、小売業45.5%、サービス業42.1%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「工事価格の値下り」12.0%、「運転資金難」8.0%、製造業では「製品安」15.6%、「純利益の減少」13.8%、卸売業では「販売価格の値下り」16.0%、「景気の見通し難」14.0%、「純利益の減少」12.0%、小売業では「純利益の減少」12.3%、「客足の減少」・「人件費の増加」がそれぞれ7.0%、サービス業では「客足の減少」26.3%、「客単価の値下り」・「同業者の競合」がそれぞれ10.5%等となっている。

## 来期(1月~3月)の見通し

### 1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」とする企業

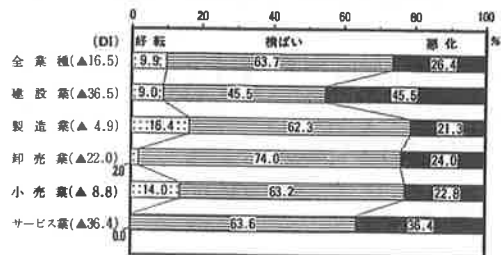
8.4%に対し、「横ばい」企業56.1%、「悪化」とするとみる企業35.5%でD I△27.1、また、前年同期比で見ると、「好転」企業9.9%に対し、「悪化」企業26.4%でD I△16.5といずれもD Iがマイナスを示しており、悪化基調で推移される見通しとなっている。

業種別にみると、今期比では建設業D I△43.4、製造業D I△29.5、卸売業D I△36.0、小売業D I△6.9、サービス業D I△36.4と、いずれもD Iがマイナスを示し、悪化基調を予想している。

また前年同期比でも、すべての業種でD Iがマイナスを示しており、特に建設業(D I△36.5)とサービス業(D I△36.4)が悪化を予想している。

このように来期の業況は、冬場の不需要期入りで各業種とも悪化基調で推移される見通しである。

図-5 来期の業況見通し(対前年同期比)



### 2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種で見ると、今期に比べ、「増加」とする企業13.5%に対し、「横ばい」企業48.5%、「減少」とするとみる企業38.0%でD I△24.5、また前年同期比では「増加」企業15.1%に対し、「横ばい」企業56.6%、「減少」企業28.3%で、D I△13.2といずれもD Iはマイナスを示し減収を予想している。

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると、

建設業では、今期比D I△25.1、前年同期比D I△40.9といずれもD Iがマイナスを示し、冬場不需要期を迎えて厳しい状態を予想している。

製造業では、今期比D I△42.5、前年同期

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I △36.0、前年同期比D I △25.1といずれもD I がマイナスを示しており、依然として業績悪化が続いている。

このように建設業界は、公共事業の発注額が前年同期を下回り、住宅建築等の民需も依然として低調に推移、加えて工事価格の値下り等の影響もあり、業績は悪化基調が続いている。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I 15.7、前年同期比D I 3.4といずれもD I がプラスを示し、比較的好転している。

細業種でみると、不需要期入りした窯業・土石製品業は前期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績が悪化しているが、他の業種は比較的好調に推移しており、特に年末・年始の需要期を迎えた水産加工業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し高操業を持続、金属・一般機械器具業も操業度を引き上げている。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比ではD I 15.6とプラスを示し上向いているが、前年同期比ではD I △10.4とマイナスを示している。

細業種でみると、燃料業、建築材料業は前期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績が悪化している。しかし他は、食料品業が前年同期比でD I がマイナスを示している以外は全般的に上向いており、特に医薬品・化粧品業、一般機械器具業が好転基調で推移した。

【小売業】

今期の売上額は、前期比ではD I 6.7とプラスを示しているが、前年同期比ではD I △10.2とマイナスを示している。

細業種でみると、前期比では各種商品販売業、衣服・身の回り品販売業はD I がプラスを示し業績好転、飲食料品業は横ばい、自動

車販売業はマイナスを示し悪化している。また、前年同期比では自動車販売業がD I プラスを示している以外は、すべて悪化ぎみに推移している。

【サービス業】

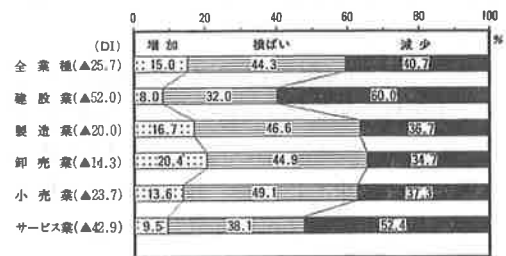
今期の売上額は、前期比D I △4.5、前年同期比D I △38.1といずれもD I がマイナスを示し、悪化基調で推移した。

細業種でみると、前期比ではクリーニング・理美容業はD I がプラスを示し業績が好転しており、ホテル・旅館業はほぼ横ばい、自動車整備業は悪化している。また、前年同期比ではすべての業種でD I がマイナスを示し、業績悪化を訴えている。

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業19.4%に対して、「横ばい」企業47.3%、「減少」している企業33.3%でD I が△13.9を示しており、前年同期比でも「減少」企業40.7%が、「増加」企業15.0%を上回っており、D I △25.7となっている。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)



このように純利益は、売り上げ不振が影響して減少傾向が続いている。

業種別にみると各業種とも悪化傾向にあるなかで、製造業の水産加工業、卸売業の医薬品・化粧品業、食料品業、一般機械器具業、小売業の各種商品販売業が、採算面でやや明るさをみせている。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業11.1%に対し、「悪

経済の窓

景気動向調査

(昭和60年度 第3・四半期)

昭和60年度第3・四半期(昭和60年10月～12月)の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

なお、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	277社	70.1%
建設業	50	33	66.0
製造業	100	73	73.0
卸売業	80	62	77.5
小売業	120	77	64.2
サービス業	45	32	71.1

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(10月～12月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると前期に比べ「好転」している企業26.7%に対し、「横ばい」企業44.7%、「悪化」している企業28.6%で、D I  $\Delta$  1.9 とほぼ横ばい状態を示している。

これを業種別にみると、建設業ではD I  $\Delta$  50.1と大幅に悪化を訴えており、サービス業もD I  $\Delta$  18.2とマイナスを示しているが、他は製造業D I 8.2、卸売業D I 10.0、小売業D I 3.4といずれもD I がプラスを示しており、比較的好転している。

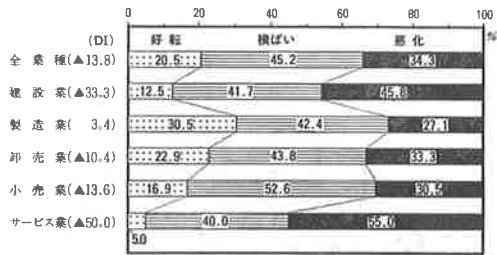
また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業20.5%に対し、「横ばい」企業45.2%、「悪化」企業34.3%で、

D I が $\Delta$ 13.8を示しており、前年より悪化している。

これを業種別にみると、製造業(D I 3.4)以外はすべてD I がマイナスを示しており、特に建設業(D I  $\Delta$ 33.3)とサービス業(D I  $\Delta$ 50.0)が悪化している。

このように今期の業況は、生産活動は比較的順調に推移しており、個人消費もやや上向いているが、公共事業・民需とも低迷を続ける建築関連や、客足の減少を訴えるサービス関連では厳しい状態となっており、業種間にバラツキをみせている。

図一 今期の業況(対前年同期比)

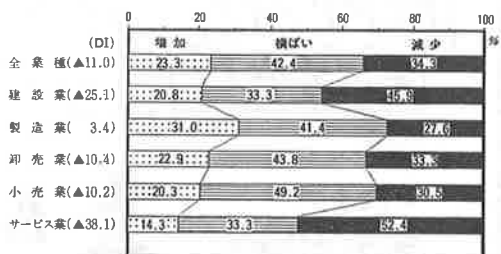


2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業33.5%に対し「横ばい」企業38.1%、「減少」している企業28.4%で、D I は5.1と若干プラスを示しやや上向いているが、業種によるバラツキがみられる。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業23.3%に対し、「横ばい」企業42.4%、「減少」企業34.3%で、D I  $\Delta$  11.0を示しており前年よりも悪化している。

図二 今期の売上額(対前年同期比)



次に売上額を業種別にみると

# ヒント

繁栄

# ぴんと

## 強い イメージを もつ

ヒット商品を生み出すには、それ相応の努力が必要です。ヒット商品をつくりだす、という強い意志が要求されます。昔から、「意志の力こそ、成功のカギだ」といわれています。

ところが最近の心理学では、「意志の力より強いイメージを持って」といわれるようになりました。つまり、ヒット商品をつくりあげた、と



いう強い成功イメージを持つことが、大切だといっているのです。その証拠として、いま廊下の上を幅三十センチの長い板をおいて、その上を「歩け」と意志が命令すれば、だれでも平気でその板の上を歩くことができます。

ところが、もしこの板を、七階の

ビルとビルの間にかけて渡し、その上を歩けと意志が命じたとしたら、どうでしょうか。だれでも、下を見た瞬間、ゾーンと寒気がして足が縮んで、どんなに強い意志が進め進めと命令しても、足は一步も前進しないでしょう。

それは、「ふみはずしたら、命がないだろう」とイメージするからです。すなわち、意志の力よりも、イメージの力が強いということです。

そこで大事なことは、「わたしのアイデアでヒット商品をつくらう。そうすれば月給もボーナスも沢山も

はウマイ!  
実にオイシイ

新発売

本松子  
黄金松前

《高級珍味》  
かみしうあわび紅  
にみぶ水鮭  
そに煮水茶  
缶詰  
詰詰詰詰詰  
詰詰詰詰詰

あふれる  
高級感

\*主要品目\*  
手づくり塩粒本  
くりり塩うり  
いかめうり  
いかに入子  
の黄金明  
辛辛りり白松  
辛辛りり白松  
りりりりりり  
りりりりりり  
りりりりりり  
りりりりりり  
りりりりりり

前  
黄魚か咲  
い花  
松前  
漬黄金か種  
か黄い各  
い生鮮珍味  
か干し(生干しいか)  
沖

# 松布目水産食品冷蔵

代表取締役社長 石黒 義男  
函館市弁天町17番10号 ☎(0138)22-9101(代表)